

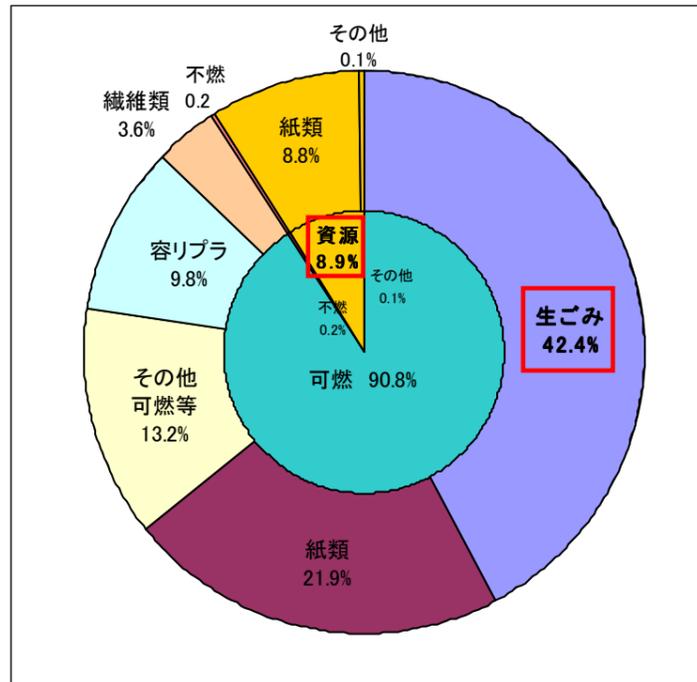
家庭から出るごみの組成割合

平成 22 年度に実施したごみ排出原単位等実態調査によると、可燃ごみの中には 8.9%、不燃ごみの中には 12.4%の資源物の混入がみられました。

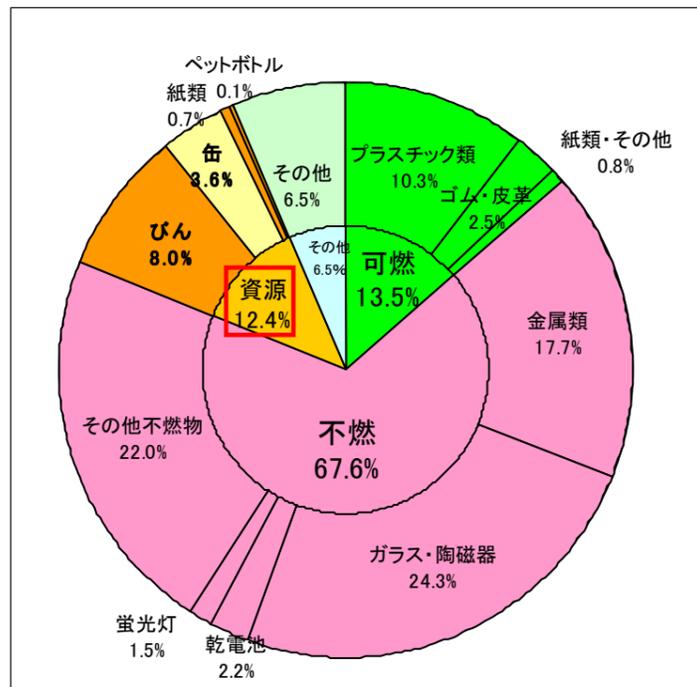
特に紙類とびん、缶の資源物の混入が多く見られることから、これらを資源として分別して出すことの周知徹底が必要です。

また、可燃ごみの約 4 割が生ごみであることから、生ごみの減量を推進することが必要です。

【可燃ごみの袋】



【不燃ごみの袋】



生ごみの減量

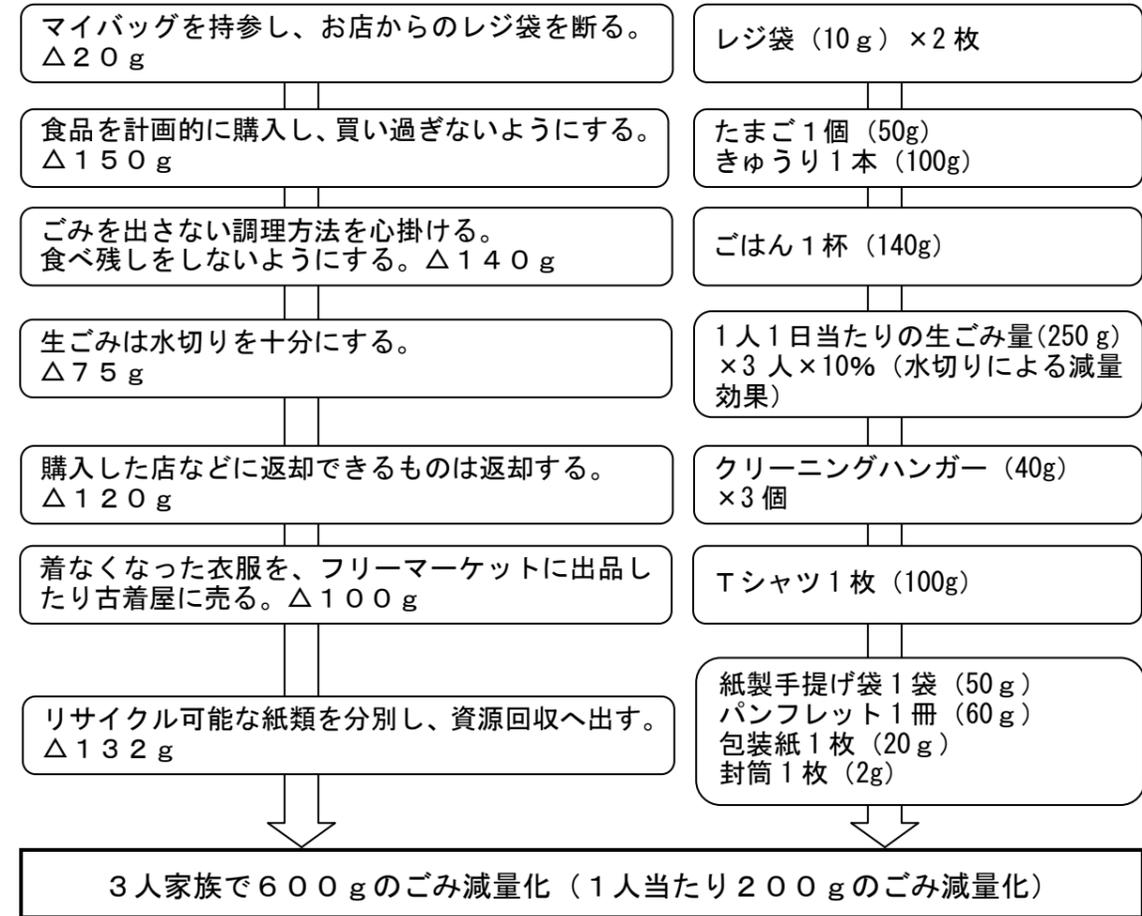
資源の分別の徹底 (紙類)

資源の分別の徹底 (びん、缶等)

1人1日当たり200gのごみ減量化の取り組み例

※160gのごみのリデュース(発生抑制)と44gの更なる資源化を想定

例1【3人家族の取り組み例】



例2【単身世帯の取り組み例】

